

<書 誌>

婦人問題にかんする 文献目録の紹介

森 崎 富 喜

はじめに

- I 婦人問題全般
- II 婦人参政権問題
- III 女子教育問題
- IV 売春問題・廃娼運動

- V 婦人労働問題
- VI 農村婦人問題
- VII 家族問題
- VIII その他

はじめに

婦人問題に関する文献目録は、女子教育とか、婦人労働とか、農村婦人の問題とか、個別のテーマにしぼったもの、あるいは一定の時期をくぎったものはいくつか出されているが、個々のテーマを包括したもので、採録の時期も明治以降最近まで、といったようなものがまだ出されていない。

婦人問題と一口に言っても、その対象とされるものの内容は非常に広範囲にわたっているし、また戦前と戦後とでは婦人問題の所在も違ってこよう。婦人問題全般を包括した文献目録のつくりにくさは、関係文献の量の多さと並んで、その辺の事情もあるのではなからうか。

しかし、参考室にいと、婦人問題に関する文献目録をみたいという要求にしばし

ばであう。ところがテーマ別につくられた文献目録はあっちの雑誌、こっちの本の巻末にと、散見できるというものの、その検索には大へん手間がかかる。どんなテーマの目録がどこに掲載されているか、拾いあげておきたいというのがかねてからの念願であった。

とり急ぎまとめたことなので、かなりもれているものがあると思うが、お気づきのものがあったら教えていただきたい。

- 日本語の文献目録に限った
- 主として戦後に刊行された単行書、または雑誌に掲載された文献目録の中から、比較的まとまっているものを選んだ
- 戦前のものについては、気づいたものはなるべくあげておいた

I 婦人問題全般

① 藤田徳松「本邦婦人問題文獻」

『マルクス主義』 第4巻第2号

(大正15年2月) p. 62~65

先に同誌4巻1号に石川茂「本邦初期社会主義文獻」が掲載されたが、そのなかに「婦人解放」の項目が設けられており、新聞・雑誌の論文も含めた紹介があった。これについて藤田氏は多少曖昧な点のあることを指摘し、文獻を補追したいということで出されたもの。内容は「其の一」「其の二」に分れており、「其の一」に明治期を、「其の二」に大正期をあてている。採録は単行書のみ約80点。

② 吉野作造「婦人問題に関する文獻」

『新旧時代』 第3年第6冊

(昭和2年6月) p. 55~56

明治初期の婦人論の文獻紹介である。「去年の暮、ある雑誌の為に明治初期に於ける婦人問題の諸論義を紹介する一小編を書いた。古くは福沢先生をはじめ明六社の先進諸家の説から自由民権時代の青年政治家の論義にまで及んだのである。その参考として二、三の文獻をも紹介したのであるが、其後之に関するもう少し詳しい参考書を知りたいとの希望を言い越される人があるので、取り敢へず手許にあるものだけを列举して粗末な目録を作ってみた」と冒頭に説明がある。

明治9年から同24年までに刊行した29点があげられている。

③ 藤田徳松「吉野作造博士ノ『婦人問題ニ関スル文獻』ヲ読ミテ」

『明治文化研究』 第3年第7冊

(昭和2年7月) p. 50~53

表題の示すとおり、前記の吉野氏の文獻にもれているものをつけ加え、ものによってごくかんたんな解説が付されている。吉野氏がほとんど婦人論に限定しているのにくらべ、『マルサス人口論要略』(明9)や、『人口救窮及保険』(明10)、『婚姻新論 初編』(明11)などの訳本まで採録されている。採録の時期も明治24年までに広がっている。ただし、列女伝、女訓、生理に関するものは除かれている。これらについては、後に示すように別に発表がある。

余談になるが、この藤田徳松さんという人はかなり系統的に婦人問題に関する資料を追求されており、他にも廢娼論、婦人参政権問題などについての文獻紹介がある。戦前の婦人問題の書目をさぐっていくとこの方の名前にしばしばぶつかるので、一体どんな人物であろうか興味をそそられた。後に紹介する④が掲載されている『婦人問題研究』は、この方の個人出版による雑誌で、大正14年に第1冊、第2冊、第3冊が出、昭和3年に第4冊が刊行されている。藤田さんは京大出身の法学士で、在学中から婦人問題の研究を一生の仕事にしていこうと決意されたようだ。個人雑誌『婦人問題研究』を刊行したのも、従来の感情的、家政的、道学的婦人観・婦人論より脱却し、運動に理論的基礎づけを与えたいという趣旨からだそうだ。雑誌はお金がつづかず、第4冊を以て廃刊になったようである。

④ 藤田徳松「明治大正婦人問題文獻年表」

『婦人問題研究』 第4冊

(昭和3年)

明治・大正期に刊行された関係文獻を年次別に羅列したものである。叢書注記のほかは出版事項、掲載誌等省略されており、

まさに年表形式で、行間もつめて羅列してあるのではっきりしないが、雑誌に発表された論文なども含まれているのであろう。第4冊の全部がこの年表にあてられている。

- ⑤ 藤田徳松「明治初期婦人問題文献内容紹介 (1)～(4)」

『明治文化研究』 第4巻第6,
10, 12号 第5巻第3号 (昭和3,
4年)

③の「吉野作造博士ノ『婦人問題ニ関スル文献』ヲ読ミテ」の文献の中から20数点をえらびだして、内容を紹介したもの。末尾に③の追加が付されている。

- ⑥ 日本近代女性史研究会「婦人問題文献目録」『明治文化全集 第16』
(明治文化研究会編 昭34改版
日本評論新社 413p.) p. 405～
412 [O81.6-M448-M(t)]

『明治文化全集』第16 婦人問題篇の巻末に収録されたもので、帯刀貞代さんの明治文化研究会が編纂したもの。明治年間に刊行された文献を年次別に配列してある。単行書のみ。

以上が戦前についての主なものである。このほか次に示すようなものもあるが、列挙するだけにとどめたい。

- 三浦千畝「女子要書解題」『女鑑』
第217～245号 (明治33～35年)
- 藤田徳松「所謂『女訓モノ』ニ就イデ」『文献』 第2号 (昭和3年)
p. 6～12
- 藤田徳松「『婦人問題』伝記ものに就いて」『書物春秋』 第2号 (昭和5年) p. 16～17

- 藤田徳松「叢書類書に現はれたる婦人問題文献」『書物礼讃』 第11号
(昭和5年) p. 33～36

戦後については次の二点がある。

- ⑦ 「戦後における婦人問題文献目録 (1)～(44) 昭和23～30年」
『婦人と年少者』 第34～107号
(昭和31～37年)

副題にうたっているように戦後10年たらずの間に刊行された文献についてであるが、単行書、雑誌論文ともに採録されており、かなり網羅的に、本格的にまとめられている。採録についても、分類や項目の立て方についても、いくつかの索引や目録を参考に検討されたそうで、つかいやすいようにとの配慮がなされている。項目はかなりこまかく立ててあるが、大きな柱だけを紹介すると以下のとおり。

- I 婦人論
- II 女性史
- III 婦人と政治
- IV 婦人と法律
- V 婦人と教育
- VI 婦人と家庭
- VII 農村の婦人について
- VIII 社会と婦人
- IX 婦人と労働

44回に分けたものを合せると50ページ余りになる。といっても、二段にぎっしり詰め込まれているので、量としてはかなりになるろう。

なお、これは、北川信氏が労働省婦人課に在任中、個人的にこの仕事に興味をもち、休日などをつかって作製されたものである。

- ⑧ 沢西義博「戦後に刊行された女性

の地位に関する図書目録』『現代
日本の女性——その社会的地位』
(小山隆編 昭37 国土社 382p.)
p. 365~381 [367. 21-Ko687 g]

「女性の地位に関する」となっている
が、採録されている内容は、婦人問題に関
する文献の一覧である。

昭和36年ごろまでの刊行の主な単行書を
採録してある。

II 婦人参政権問題

- ⑨ 藤田徳松「吾国婦人参政権問題に
関する文献二三」
『書物礼讃』 第10号 (昭和4年)
p. 25~27

単行書のみ。大正から昭和4年ごろまで
に刊行のもの8点があげられ、かんたんな
解説がある。

- ⑩ 「『婦人参政権問題』関係目録」
『内外調査資料』 第1年第8輯
(昭和4年12月) p. 249~251

「婦人参政権問題」と題して書かれた論
文の末尾に付されているもの。新聞・雑誌
に掲載されたものだけで、単行書は含まれ
ていない。大正8年ごろから昭和4年ごろ
までの40点が年代順に並んでいる。

III 女子教育問題

- ⑪ 「女子教育婦人問題に関する書籍」
(大正3年11月調べ)
『女子教育研究調査報告集 第一
輯』(東京女子高等師範学校 大
正4年 210p.) p. 1~14
[299-44]

(i) 邦文の部 (ii) 英文の部からなっ
ているが、邦文の部については、明治以降刊
行の単行書が主になっており、ほかに『丁

酉倫理会倫理講演集』『心理研究』『帝国文
学』などの雑誌に掲載された論説が、誌名
を限定して採録されている。英文の部で
は、刊年、発行所などの出版事項は省略。

目次は以下のとおり。

(i) 邦文の部

- (1) 生理心理に関するもの
- (2) 女子教育に関するもの
- (3) 家庭訓、女訓及女鑑の類
- (4) 婦人問題に関するもの
- (5) 雑之部
- (6) 論 説

(ii) 英文の部

- (A) Physiological and psychological
- (B) Education
- (C) Social, sociological
- (D) Miscellaneous

- ⑫ 吉田昇, 中島瑞子 「女子教育に
関する文献 明治以降」
『野間教育研究所紀要 第1輯
女子教育特輯』(世界社 昭22
275p.) p. 199~221
[FB12-7]

同紀要に吉田昇氏が「明治以降に於ける
女子教育論の変遷」を発表されており、そ
れに付随したかたちでこの文献目録が掲載
されている。したがって女子教育論が中心
になっている。収録範囲は昭和21年まで、
単行書のみ。配列は刊年順。

- ⑬ 中嶋邦「戦後女子教育研究文献目
録 (1)~(3)」
『女子教育研究双書 1~3』(日
本女子大学女子教育研究所編 国
土社 昭40, 42, 43)

単行書、雑誌論文を問わず年代順に配列
されているが、年代順に配列したところ

一つの意味があるようである。この目録は上にも記してあるように、『女子教育研究双書』に3回に分けて『発表されたものだが、双書の1に中嶋邦氏の「戦後女子教育研究の回顧と展望」がある。昭和40年ごろまで一戦後20年一を四つの時期に区分して、その間に発表された女子教育についての研究がどのような分野を扱ってきているか、女子教育の関心がどのような点に向けられ、どのような変遷を経ているかといったようなことを分析したものである。特に断り書きはないが、目録はこの論文との関連で作製されたようである。論文と合わせて読めばいっそう参考になろう。

⑭ 「婦人教育関係文献目録」

『日本の社会教育 第10集 婦人の学習』（三井為友編 東洋館出版社 昭42 342p.）p. 296～314

戦後の資料についてである。単行本と雑誌論文に分け、それぞれを＜婦人教育一般＞＜学習・学級、生活記録＞＜団体運動＞＜生活、意識＞＜労働、職業＞＜女子教育＞＜その他＞という項目でまとめている。社会教育、成人教育の一環としての婦人の教育という観点から資料が選ばれている。生活記録、運動などに関する資料が採録されているのが特徴であろう。

IV 売春問題・廃娼運動

⑮ 道家斉一郎 「売春婦に関する著書及パンフレット」

『売春婦論考』（道家斉一郎 昭3 史誌出版社 649p.）p. 646～649 [580-58]

早川啓之助「遊廓改良論」をはじめとし、約250点（他に洋書13点）に及ぶ売春問題、廃娼論に関する文献が列挙されてい

る。雑誌論文も採録されている。刊年が明記されていないのが残念。

⑯ 藤田徳松 「吾国に於ける廃娼論に関する資料二三」

『物書礼讃』 第9号（昭和4年）p. 5～7

明治・大正期の廃娼論のうち、主なものとして35点をあげている。単行書のみ。

⑰ 「売春関係文献目録」 労働省婦人少年局編 （婦人関係資料シリーズ 一般資料 22, 31, 36, 42, 47号）

明治以降の関係文献を戦前・戦後に分け、それぞれ発行年次順に配列してある。ほかに官庁出版物だけ別にまとめている。

この「婦人関係資料シリーズ 一般資料」は、19号から売春問題に関する資料集としての形をとっている号がかなりあるが、文献目録はそれらの資料集の中のページをさして掲載されている。22号に発表されたものが主で、36号にその改訂版があるほかは、それぞれ一ページぐらいの補遺である。

⑱ 「売春関係参考文献目録」

『売春対策の現況』（売春対策審議会 昭34 355p.）p. 507～518 [367. 7-B 47b]

戦前の雑誌論文が主。(一)売春防止関係法規 (二)売春の取締 (三)補導処分・保安処分 (四)売春問題・対策 (五)国際会議 (六)外国事情 (七)人身売買 (八)その他 と分かれており、それぞれ年代順に配列されている。(付)として⑰の補遺と、各省庁主要資料目録の二つがついている。

V 婦人労働問題

- ⑭ 労働科学研究所編 『婦人労働に関する文献抄録（邦文の部）』昭15 256p.（『日本労働科学研究所報告』第1輯）〔14.5-887〕

「婦人の労働に関する、わが邦並に独、英、米、仏、ソ連等の内外の科学的研究の文献をあまねく蒐集し、その重要なものについては、特にその内容を抄録解説し、更にこれを項目別に分類した」（序言）もの。

はじめに60ページぐらいの「文献一覧」があり、その後に「文献抄録」として「一覧」中の主な資料についての詳細な解説がある。

婦人労働に関する文献目録としては代表的なものであるので、項目の主なものだけでも紹介しておきたい。

第一章 婦人労働問題一般に関するもの

第一節 婦人労働問題一般に関するもの

第二節 戦時婦人労働問題に関するもの

第三節 諸外国に於ける婦人労働問題に関するもの

第二章 工、鉱業に於ける婦人労働者の労働条件に関するもの

第三章 工、鉱業に於ける婦人労働者の労働状態に関するもの

第一節 工、鉱業に於ける婦人労働者の労働状態に関するもの

第二節 婦人労働者の出稼・募集・移動に関するもの

第四章 婦人労働者の能率及び適性に関するもの

第一節 婦人労働者の適性に関するもの

第二節 婦人労働者の能率に関するもの

第五章 婦人労働者の体力消耗に関するもの

第一節 婦人労働者の体力消耗一般に関するもの

第二節 婦人労働者の身体的特徴並びに労働の影響に関するもの

第三節 婦人労働者の精神的特徴並びに労働の影響に関するもの

第四節 婦人労働者の災害、疾病、死亡に関するもの

第五節 婦人労働者の栄養及び体育に関するもの

第六章 婦人労働者の母性保護に関するもの

第一節 婦人労働者の妊娠・出産・育児に関するもの

第二節 婦人労働者の母性保護に関するもの

第七章 婦人労働者の教育並びに福利施設に関するもの

第一節 婦人労働者の教育に関するもの

第二節 婦人労働者の福利施設に関するもの

第八章 婦人労働者の保護法制に関するもの

第一節 日本に於ける婦人労働者の保護法制に関するもの

第二節 諸外国に於ける婦人労働者の保護法制に関するもの

第九章 農業婦人労働に関するもの

第一節 農業に於ける婦人労働問題並びに婦人の労働状態に関するもの

第二節 農業労働婦人の健康並びに疾病・死亡に関するもの

第三節 農業労働婦人の母性保護に関するもの

第四節 農村に於ける婦人の生活に関するもの

第十章 一般職業婦人に関するもの

(イ) 論文 (ロ) 調査

この企ては、もともと企画院が労研に委嘱したもので、でき上った原稿を企画院が印刷し、関係官庁に配布したのだが、配布がきわめて小範囲に限定されていたため、一般の要望を満たすことができなかった。この企画院版を更に増補改訂して一般の要望にこたえようとしたのが、この目録。戦前の婦人労働問題に関する文献を調べる上で、欠くことのできない目録である。

なお、続編として次のような「欧文編」もある。

『婦人労働に関する文献抄録
(欧文の部)』 昭16 222p.
(『日本労働科学研究所報告』
第2輯)

- ㊹ 花見忠、戸坂嵐子 「婦人労働に関する主要文献目録」
『講座 労働問題と労働法 6
婦人労働』(昭31 弘文堂
p. 303~307 [328. 366-Ko6962])

婦人労働問題を研究していく際の基本となる文献を紹介したものである。戦前の文献についてもふれているが、戦後が中心。(1)問題の手がかりとして (2)女子労働一般及び労働事情 (3)賃金問題 (4)労働保護 (5)労働組合及び争議 (6)生活 と分かれている。他に定期刊行物・官庁資料および統計の紹介もある。

- ㊹ 金持伸子 「婦人労働問題——文献紹介を中心に——(その一)、

(その二)」

『福祉研究』16, 17号(昭和41年
3月, 8月)

これも、現在の婦人労働問題にふれながら基本文献を紹介したもの。㊹とほとんど同じ項目をたてている。

- ㊹ 関谷嵐子 「婦人労働問題」
『文献研究……日本の労働問題』
(労働問題文献研究会編 昭41
[46年改版] 総合労働研究所
300, 12p.) p. 102~110
[366. 031-R643 n]

『文献研究……日本の労働問題』の中の一節として設けられた「婦人労働問題」の部分である。文献紹介とか、文献解説というものではなく、従来の研究成果としての資料の中から、いくつかをとりあげ分析していく中で、現在の婦人労働の問題点をつかもうというのが趣旨である。項目は、1. 婦人労働の現状と「変化」 2. 婦人労働総論 3. 婦人労働の諸形態 4. 労働保護・労働条件 5. 婦人問題・家族制度と婦人労働

以上が、婦人労働に関する主な文献目録であるが、このほか比較的まとまったものとして次のものがある。

- ㊹ 井上美代「婦人労働文献目録」
『「合理化」と婦人労働者』(嶋津
千利世 昭45 労働旬報社
439p.) p. 423~439
[EL187-9]

1960年以降の資料に限定している。単行書、雑誌論文ともに採録。

- ㊹ 「婦人労働文献目録」
『賃金と社会保障』 345号(昭和
40年3月) p. 42~51

②と同じく '60 年以降の資料をまとめたもの。「合理化」が婦人労働者のうえにどのような影響を与えているか。また、それに対する闘いがどのようにとりくまれているかという観点からまとめたものである。

I 婦人労働一般資料 II 産業別にみた婦人労働資料と分かれるが、この目録は II の資料紹介に特徴があるといえよう。II には、労働組合の各単産で出している資料がかなり収録されている、

VI 農村婦人問題

- ② 井出ふさえ、永原和子 『日本農村婦人問題文献目録』 昭27
農業総合研究所 70p.
[611.9-I126 n]

昭和元年から同25年上半期までの日本語による単行書、小冊子、雑誌、年報、年鑑類に発表された論文を採録している。昭和初年以降出版の文献に限ったのは学問的理由からではなく、整理の都合上からのことだそうだ。「大正期以前については若干の利用しうべき文献目録があるから……」と凡例に書かれている。農村婦人の問題に関する文献紹介は非常に少なく、近年刊行されたもので目についたのは、「現代婦人問題講座」の3として刊行された『農村婦人』（丸岡秀子、大島清編 昭44 亜紀書房 396p.）巻末にある「参考文献・基本資料」ぐらいなので、大正期以前の文献についてもぜひ知りたいと思い、「若干の利用しうべき文献目録」をさがしてみたが、⑨に紹介した『婦人労働に関する文献抄録』の第9章に収められた「農業婦人労働に関するもの」以外には、残念ながらまだつかめていない。

A目録 B解説および解題、の二部から

なっており、BにはAの中の主な文献について解題がある。この目録も⑨の『婦人労働に関する文献目録』とならんで代表的なものなので、A目録の中の項目だけでもあげておきたい。

I 農業労働と婦人

- (1) 農業経営
- (2) 農業労働
- (3) 兼副業

II 農家生活と婦人

- (1) 家事労働
- (2) 家事経済
- (3) 衣、食、住、生活改善

III 農村婦人の母性生活

- (1) 婦人の健康
- (2) 育児、保育施設

IV 農村婦人の文化生活

- (1) 教育機関
- (2) 文化施設
- (3) 生活意識

V 農村婦人の団体生活

- (1) 政治経済団体
- (2) 文化団体

VI 農村婦人の移動

- (1) 職業移動
- (2) 社会移動

VII 家族制度と婦人

- (1) 家族
- (2) 婚姻・相続

VIII 農村生活と婦人

- (1) 農村生活
- (2) 農村習俗
- (3) 農村児童

IX 農村婦人論

- (1) 農村婦人論
- (2) 婦人問題一般

X 統計資料

- (1) 統計、年鑑

(2) 文献目録

B解説および解題は、やはりこの項目に
そってなされている。

VII 家族問題

戦前の資料も含まれた目録としては、次
の二点がある。

㉔ 「家族研究文献」『社会学雑誌』

第3年第33号（昭和2年）

p. 92～120

外国における主要著書と、日本における
家族に関する研究文献とに分かれている。
日本における研究文献については、単行書、
雑誌論文ともに採録されている。

㉕ 小山隆「日本家族研究文献（1）

（2）」『季刊社会学』3，4号（昭

和23年11月，25年5月）

社会学的な立場から研究された文献を中
心にしているが、法律，歴史，民俗学の面
からの研究もとり上げられている。明治以
降の単行書，雑誌論文。

戦後の資料を対象にしたもので，最もよ
くまとめられているのは，㉔であろう。

㉖ 『家族問題文献集成——戦後家族

問題研究の歩み——』太田武男，

加藤秀俊，井上忠司共編 京都大

学人文科学研究所 昭45 206p.

〔E1-4〕

収録範囲は，昭和23年1月以降約20年間
に発表された家族問題をめぐる邦語文献。
単行書については昭和41年末まで，雑誌論
文は43年夏までに刊行された資料について
である。

第一部 家族史に関する文献

第二部 現代家族に関する文献

と大きく分かれ，それぞれの中が，第一章

家族一般 第二章家族関係 第三章風俗・
習慣・制度 第四章生活問題 第五章家庭
教育 第六章健康管理 第七章外国の家族
となっており，各章が更にこまかく分かれ
ている。

家族問題といっても非常に幅広く採録し
てあり，家事労働や家庭教育に関するもの
まで含まれている。

44年に同研究所から出された『家族法文
献集成』の姉妹編であり，続編として「欧
文編」も出されている。

このほか，採録されている文献の量は少
ないが，解題が付されていて非常につかい
やすいものとして，次の二点がある。どち
らも単行書について。

㉗ 依田明，田代俊子「（家族心理学）

主要文献紹介」『家族心理学』

（詫摩武俊，依田明編著 昭47

川島書店 222p.）p. 214～221

〔EC94-16〕

㉘ 「〔家族関係〕参考文献紹介」

『家族関係の社会学——生活編』

（菊地幸子 昭41 世界書房

249p.）p. 231～244

〔361.4-Ki161k〕

VIII その他

㉙ 「青鞥関係文献」『青鞥——元始

女性は太陽であった』（井手文子

昭36 弘文堂 227.p）

〔367.21-I 126 s〕

同書巻末に資料1～3が付されていて，
その3として「青鞥関係文献」がある。雑
誌，新聞，単行書などに掲載された『青
鞥』に関する記事をリスト化したもの。
なお同書には資料2として『青鞥』巻別目

次がある。

㉒ 「主婦論に関する参考文献」

『主婦とは何か』(生活科学調査
会編 昭40 医師薬出版 237p.)
p.56~59

1947年以降の主婦論に関する文献。1960
年にはじまる「主婦論争」が中心である。

㉓ 『リスト・おんなの記録』 石橋
正子, 伊藤ちはる, 保土田政子編
・刊 昭44 46p.

昭和20年8月以降刊行の、女性を書いた
記録, 手記が採録されている。

戦争のきずあと 社会の谷間で 生活の
場から 職業をもつ 日本をはなれて 子
供達の記録 の6つに分かれている。

㉔ 年表

以上のような文献目録を拾いあつめる作
業の過程で、いくつかの年表にぶつかっ
た。文献目録とはまた違った意味で、研究
者からしばしば求められるものなので、代
表的なものだけでもあげておきたい。

㉕ 三井礼子編 『現代婦人運動史年
表』 三一書房 昭38 260p.
(日本現代史年表)
[367.21-M552g]

1868年(明治元年)から1959年までの、
日本の婦人運動史の年表である。偶数ペー
ジに年表が、奇数ページに年表中の重要事

項の解説がある。総合的な婦人運動史の年
表の代表的なものであり、単行書の形で出
されているのは、現在のところこれ一冊だ
けである。

㉖ 「婦人解放運動史年表 1868年—
1960年」『婦人のあゆみ八十年』
(日本婦人団体連合会 昭35 新
読書社 284p.) p.95~266
[367.21-N684h]

この年表も明治維新を基点としている。
第一部が1945年8月までの戦前期、第二部
がそれ以降の戦後の部分と分かれている。
全体を通じ、国内政治社会関係、婦人解放
運動関係、国際関係の三つの欄にわかれて
いる。

なお、同書の巻末には「戦後婦人問題文
献目録」があるが、㉔とはほぼ同じ内容のも
のであるので省略した。

㉗ 塚本しゅう子「戦後婦人問題年
表」『戦後婦人問題史 共同討議』
(一番ヶ瀬康子編著 昭46 ドメ
ス出版 365p.) p.339~363
[EF72-41]

婦人に関する政策および関連事項 婦人
の状況 婦人(含労組婦人部)の運動 一般
および世界 の四つの欄からなっている。
昭和20年8月以降45年12月までの時期につ
いてである。

同書にも「戦後婦人問題に関する文献」
があるが、これも省略した。

(もりさき・ふき 経済社会課主査)

本誌記事訂正のお知らせ

本誌第9号『全米総合目録の成立とその背景』の記事中、21ページ9~10行目、「5
月時あたかもラスベガスにおいてALA総会」となっておりますが、「1月時あたかも
ワシントンにおいてALA冬期大会」の誤りにつき、訂正します。